

事務所を移転します

平成23年度の事業が終わり、いま、新年度の活動計画を練り上げているところです。

会員のみなさまには、様々なご協力・ご支援をいただき、本当にありがとうございました。引き続き新年度の活動へみなさまのお力添えをよろしくお願い致します。

さて、21年度の秋から和歌山市より委託を受け実施してまいりました「和歌山市エコライフ促進事業」も3月末で終了となり、この事業で雇用していました5人のスタッフが、残念ではありますが、散り散りとなりました。

そのこともあり、今のままの事務所では運営（経営）がままならず、この4月末をもって移転することに決まりました。

移転に伴って、長年使用してきました電話番号も変わってしまう等、みなさまには大変ご不便もおかけしますが、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。



移転先住所：和歌山市毛見996-2 (元 カンタ・デル・ソル)
電話：073-499-4734 FAX：073-499-4735

第9回通常総会の日程決まる

NPOわかやま環境ネットワークの第9回通常総会の日程が決まりました。

今回の総会では、会員団体様の日頃の活動がより交流できるよう、工夫をこらしてまいります。また、恒例の講演につきましては、副代表理事の石橋幸四郎氏（㈱石橋 代表取締役）に、「森林資源の利活用とエネルギー革命」をテーマに、地域発の循環型エネルギーについて、氏が長年に渡りエネルギーにかかわり実践されてきた事、そして今、まさにとりくもうとされている「木質バイオマス」による発電の可能性について語っていただくことになっています。

会員のみなさまのご出席を心よりお願い致します。

日時：2012年 5月26日（土）
13：30～15：30

場所：和歌山市勤労者総合センター会議室
(和歌山市役所西隣)

講演：
「森林資源の利活用とエネルギー革命」
講師：石橋幸四郎氏（㈱石橋 代表取締役）

特別な「子どもの日」

3月26日未明、東京電力の柏崎刈羽原発6号機が定期検査のため停止し、日本国内の原発で現在なお稼働しているのは、北海道電力の柏原原発3号機のみとなった。

柏原原発3号機といえば、高橋はるみ道知事が昨年夏、定期検査に伴う調整運転からの営業運転再開を認めて物議を醸したあの原発だが、北電はその柏原原発3号機について、次の定期検査のため5月5日から止めることを、国の原子力安全・保安院に申請した。

過去の定期点検の実績から原発ウォッチャーの間では4月中下旬に止まると観測されていたのだが、ギリギリまで引き延ばした結果が5月5日だそうだ。それまで、他の原発が再稼働することがなければ、国内54基の全原発が停止することになる。

原発事故の恐ろしさは国民の心胆にしっかり焼き付いている。だが、深刻な電力不足が起きるのも困る。原発ゼロは望ましいが、当面する電力不足を乗り切るため再稼働やむなしかも…というのが大方の国民の率直な心情だろう。

だが、電力需要のピークである夏を、このまま原発なしで乗り切れてしまえば、恐ろしい原発の再稼働など望む人は金輪際いなくなる。こうなれば、日本の原発はもう終わりだ。そして実際のところ、原発がなくても、昨夏程度の省エネや電力契約による需給調整の徹底、揚水発電のかさ上げや電力融通など手を尽くせばこの

夏、深刻な電力不足は生じないというのが大方の見方だ。

であればこそ原発推進派は夏が来る前の再稼働に必死になる。それこそが大飯原発3・4号機の再稼働を巡る一連の茶番騒動の真相で、「全原発停止は日本の集団自殺」との政府高官の脅しはその焦りの強さを物語っているし、経産大臣は「(柏原原発3号の定期検査入りで国内の原発は)一瞬ゼロになる」と、何が何でも大飯原発を再稼働させ原発ゼロ時間を最小に止めたい政府の意図をつい口走ってしまった。つまり、それほどまでに原発ゼロの日は現実味を増している。

もちろん、その日、たまさか原発がゼロになれば万々歳というわけではない。原発に代わるエネルギーをどうするか、さらには地球温暖化を防ぐためにエネルギー多消費型の社会をどう作り替えてゆくのか、その明確なビジョンと行動なしに、この国に広く深くはびこる原発依存構造からの本当の決別はできない。

今年の5月5日は間違いなく特別な「子どもの日」になる。その特別な子どもの日が「脱原発記念日」あるいは「自然エネルギー記念日」として、子どもたちやそれに続く未来の世代に思いをさせ、原子力にも化石燃料にも頼らない社会へと、この国が大きく舵を切った日として長く歴史に記憶されるよう、声を上げ行動してゆきたい。

(重栖 隆)



平成24年度の補助・委託事業について

今年度の環境省補助金事業につきましては、「地域活動支援・連携促進事業」(コンソーシアム事業、約800万円)が確定。また昨年度実施した「うちエコ診断事業」(金額未定)が全国ネットを通じて県センターに委託される予定です。和歌山県からは「エコチャレンジ事業」(約58万円)の委託が決定し、「草の根支援事業」(約135万円)も実施予定です。

■環境省補助事業「コンソーシアム事業」につきましては、昨年度実施した「木質バイオマス利活用事業」を発展させた形で「薪」をテーマに企画中です。同時に、防犯灯・街路灯をLEDに切り替える、自治会や金融機関との協働システムづくりを実施する予定です。

■うちエコ診断事業(全国ネットより委託)は、昨年同様、一般家庭を対象にしながらも、自治体の協力を得ながら、企業や団体との協働をすすめたいと考えています。そのために「診断員」を増員し、一定の規模

での診断をおこない、数値的な結果を出したいと思います。

■県「エコチャレンジ事業」は、すでに和歌山県が今年度の「環境家計簿カレンダー」を作成して、いま各地域に配布中ですが、「エコチャレンジャー」を昨年よりも多く募れるようにし、エコチャレ教室も15教室を開ききりたいと決意しています。

■県「草の根支援事業」につきましては、各地域の「協議会」が自立した活動を展開しており、しっかりと連携したとりくみと支援を行います。また、温暖化対策情報誌「わおん通信」(年4回発行)の充実、推進員の養成にとりくみます。今年は特に和歌山市地域への支援を県センターとして力を入れて行きたいと思っています。

5月26日の総会で大いに議論いただくとともに、会員のみなさまのご支援・ご協力をよろしくお願い致します。(事務局長 目 祐二郎)

"人の気"を使うと "電の気"を減らせる

3月25日、栃木県那須塩原にある『非電化工房』に行ってきました。ここは「電気に頼らない楽しい暮らし方」を実際に目で見て確かめることのできるテーマパークです。

約1ヘクタールという敷地の真ん中にポッカリと池があり、それを取り囲むようにしてアイデアいっぱいの手作り建物があります。籾殻を断熱材にした非電化籾殻ハウスや、わらをブロック状にしたものを積み上げてつくるストローバイルハウスなど。このほかにもコンセントのいらぬ非電化冷蔵庫や、2日で1.5リットルの湿気を吸い取る非電化除湿機、ハンドルを回すと籾殻を吹き飛ばして玄米と分けられる非電化籾すり機や、コーヒーを自分好みにローストできる非電化焙煎機まで発明品がズラリと勢揃いしています。こうしたひと手間をかける理由は、米は籾のまま、コーヒー豆は生豆のままだと酸化することなく何年でも常温保存が可能だからだそうです。

敷地内をひと通り見学してゲストハウスに戻り、代表の藤村靖之さんのお話ははじまります。



非電化工房代表：藤村靖之氏

「普通で考えると1杯のコーヒーを入れるのに25分（焙煎10分、挽くのに5分、淹れるのに10分）もかける人はいないでしょ。

でも、身体や自然にやさしいものを考えていくと、こういうことが喜びや愉しさに変わるんですよ。」と。そんな話を聞いていると、コーヒーの良い芳りが。もちろん非電化焙煎スペシャル。素朴でやさしい味がしました。

藤村さんが考える非電化生活とは、「無理して行うダイエットのような節電は、やがてリバウンドをおこして



非電化除湿機(左奥)と非電化籾すり機(右手前)



非電化冷蔵庫。



自然に囲まれた非電化工房。

しまいかねない。快適・便利・スピードを追求し続けることのみを幸せとするなら、さらなる電気が必要。便利をすこし手放して自らの五感を活用



籾殻を断熱に使った籾殻ハウス

し、みんなで愉しく力を合わせていけば、幸せ度を倍にすることができる。そうすると電気を使う量を不思議なくらい減らしていける、そんな生活なのです。」と、静かに熱く語ってくれました。私はお話をうかがい、沢山のヒントとアイデアを得ることが出来ました。

この非電化工房は、福島第1原発から約95キロ南西にあります。この1年、非電化製品の開発をストップし、地域の除染活動に専念されていたそうです。無論本格的な活動はこれからだそうで、藤村氏の新たな挑戦のひとつとなっています。

今回の見学で感じたことは、エネルギー消費のあり方について考え、実践してみるということでした。藤村氏は「テクテクノロジー」というキーワードを発しています。そこには、時代を逆行し不便を強いるというような後ろ向きの考えはありません。「愉しく取り組む」という大切な想いが込められています。

私は今の生活の中に知恵と少しの手間を持ち寄れば、継続可能な豊かな生活につながっていくことを実感できました。

(リポーター 白井達也)

エネルギーシフトを今こそ
「第4の革命—エネルギー・デモクラシー」
 全国一斉上映ウィークにご参加ください！

「100%再生可能エネルギーへのシフトが可能で必要だということを理解すれば、人々は自ずとこれを推進するだろう」。

これは、この映画のナビゲーターでもあるヘルマン・シェーア氏の言葉です。彼こそが、みなさんご存知のドイツの「電力買い取り法」と「再生可能エネルギー法」を制定させた中心人物で、ドイツを再生可能エネルギーの世界的リーダーへと導いたキーパーソンです。

「本当に100%再生可能エネルギーにすることは可能か？」との素朴な疑問にもきっと答えてくれるはずですよ。

いっしょに観て、ふるさと和歌山のエネルギーシフトを進めましょう！

和歌山上映会

日程：6月16日(土)
 ※上映時間未定(2または3回上映予定)

会場：男女共生推進センター 6Fホール
 (和歌山市小人町29 432-4704)

参加協力券：500円
 主催：エネルギー・デモクラシーをめざす仲間たち
 連絡先：070-5587-3340 kabuling@gmail.com (にしで)
 ※この上映会への協賛金(1口5,000円パンフレット1部+映画鑑賞券5枚進呈)を募っています。

太陽と、風と、大地のエネルギーで暮らしが、世界が変わる！

第4の革命
 エネルギー・デモクラシー
 THE 4TH REVOLUTION
 ENERGY AUTONOMY

世界中で起る「エネルギー革命」とは？
 ドイツを変えたドキュメンタリー映画

100%再生可能エネルギーへの「エネルギーシフト」は実現できる！
 世界のキーパーソンが希望ある未来ビジョンを語る。

Special Partner
 CELLS

■青法協憲法記念行事 憲法を考えるタベ
 「放射能汚染の時代～3.11後の世界をどう生きるか～」

講師：今中哲二 京都大学原子炉実験所助教
 日時：4月27日(金) 18時～
 場所：和歌山市 プラザホープ 4階ホール
 参加費用：無料
 主催・問合せ：青年法律家協会和歌山支部
 073-433-2241

■特別展「災害と文化財」

日時：4月28日(土)～6月3日(日) (月曜休館)
 午前9時半～午後5時(入館は午後4時半まで)
 場所：和歌山県立博物館
 入館料：一般280円・大学生170円・高校生以下無料
 主催・問合せ：和歌山県立博物館
 073-436-8670

■第2回 和歌山大学 土曜講座

「いま改めて、暮らしと環境のつながりを考える」
 講師：山本 祐吾 (和歌山大学システム工学部講師)
 日時：05月12日(土) 14時～
 場所：和歌山大学松下会館(※和歌山県立図書館隣)
 費用：無料 [事前申込み必要]
 主催・問合せ：和歌山大学地域創造支援機構地域連携・生涯学習センター 073-427-4623

お知らせ 【産消提携倶楽部ふうど】より

現在、毎週火曜日に和歌山有機認証協会事務所前で開催している「ふうど市(有機農産物の直売市)」は、事務所移転後の5月からも同じ場所で継続することになりました。引き続き、よろしくお願いいたします。

開催場所：和歌山市小松原通3-22
 開催日時：毎週火曜日 11:00-13:00頃迄
 問合せ先：073-499-4736 ※5/1以降



ういねっと (わかやま環境ネットワーク通信) 第27号 (2012年4月20日発行)
 発行：NPOわかやま環境ネットワーク 代表理事 重柄 隆
 〒641-0014 和歌山市毛見9-9-6 電話 073(499)4734 FAX 073(499)4735
 mail: wenet@vaw.ne.jp http://wenet.info/